東日本大震災救援募金会計　総額　713,341,203 円

国内　479,545,920 円　　海外　233,795,283 円　　2013 年 1 月 31 日現在

東日本大震災緊急救援募金・東日本大震災救援募金教区別集計表　（単位：円）
【2011 年 3 月 15 日～ 2013 年 1 月 31 日】

教区	件数合計	金額合計
北海	91	3,533,790
奥羽	95	3,435,734
東北	48	2,044,102
関東	568	37,468,163
東京	1096	140,140,455
東京教区	10	2,282,956
東京・東	*182*	*20,185,498*
東京・西南	*300*	*60,127,687*
東京・南	*109*	*18,564,635*
東京・北	*201*	*18,372,342*
東京・千葉	*294*	*20,607,337*
西東京	468	46,991,256
神奈川	394	38,385,941
東海	348	30,064,215
中部	430	52,889,751
京都	73	8,730,247
大阪	342	27,719,184
兵庫	82	9,096,667
東中国	74	4,433,863
西中国	138	6,432,216
四国	273	14,022,112
九州	265	15,139,046
沖縄	69	2,005,346
個人・他	835	37,013,832
総計	5,689	479,545,920

東日本大震災救援対策委員会会計、
東日本大震災救援対策本部会計中間収支計算書　（単位：円）

	合計	12 年度合計	総合計
	2011 年 3 月 12 日～ 3 月 31 日	2012 年 4 月 1 日～ 2013 年 1 月 31 日	2011 年 3 月 12 日～ 2013 年 1 月 31 日
【収入の部】			
繰　入　金	50,000,000	0	50,000,000
海外募金収入	210,440,705	23,354,578	233,795,283
国内募金収入	336,817,359	142,728,561	479,545,920
雑収入	0	185,839	185,839
長期借入金収入	0	140,000,000	140,000,000
長期貸付金回収収入		175,500	175,500
当年度収入合計 (A)	597,258,064	306,444,478	903,702,542
前期繰 越 収支差額		380,866,480	
収 入 合 計 (B)		687,310,958	
【支出の部】			
救　援　金 *1	103,607,240	56,728,791	160,336,031
会堂牧師館再建補助金 *2	0	110,085,300	110,085,300
見　舞　金	1,940,000	3,000	1,943,000
委 員 会 費	3,093,199	1,894,282	4,987,481
渉　外　費	917,653	144,234	1,061,887
人　件　費	16,120,193	19,270,167	35,390,360
事　務　費	20,387,645	14,469,542	34,857,187
活　動　費	3,123,444	3,953,859	7,077,303
車　両　費	3,960,228	2,866,854	6,827,082
建　物　費	13,241,982		13,241,982
長期貸出金支出	0	108,000,000	108,000,000
救援対策基金戻入金	50,000,000		50,000,000
当年度支出合計 (C)	216,391,584	317,416,029	533,807,613
当年度収支差額 (A)-(C)	380,866,480	▲ 10,971,551	369,894,929
次期繰越収支差額 (B)-(C)		369,894,929	

＊1　救援金 1 月支出分

2013.1.15	第 6 回こひつじキャンプ 2012 年 11/23~25 東京 YMCA 妙高高原ロッジ メンバー 35 名、リーダー・スタッフ 6 名、バス運転手 1 名　キャンプ実施費用 支払先：東京 YMCA	1,263,158

＊2　会堂牧師館再建支援金送金先（1 月支出分）

2013.1.7	東日本大震災 教会堂・牧師館再建復興工事支援金 東北 _ 勿来教会（2012 年 10/15 本部会議にて決定）	700,000
2013.1.8	東日本大震災 教会堂・牧師館再建復興工事支援金 関東 _ 甘楽教会（2012 年 11/19 本部会議にて決定）	3,000,000
2013.1.8	東日本大震災 教会堂・牧師館再建復興工事支援金 関東 _ 原市教会（2012 年 11/19 本部会議にて決定）	3,000,000
合計		6,700,000

ご活用ください！

Contents
1. 東北教区被災者支援センター・エマオ【仙台・石巻】活動報告（12：00）
2. ハートフル遠野【遠野・釜石】活動報告（2：36）
3. 東北教区被災者支援センターエマオ報告・ジェフリー宣教師作成（7：48）

DVD「日本キリスト教団救援対策本部　各センターの働き」

未曾有の大震災から 2 年。日本基督教団の被災者・被災地支援活動の記録が DVD になりました。映像では、この 2 年間のほんの一部ではありますが、その記憶がゆっくりと流れてゆきます。それは見る者の想像力を喚起し、確かなナラティブー物語として、ひとりひとりの記憶として紡がれるのです。これらの働きは、神から命じられた業として、今もなお続いています。「いのちは、いのちとのつながりの中で、生かされる」（DVD から引用）ことを、この DVD 映像で皆さんと共有できればと願います。引き続き、支援活動をどうぞお支えください。

各教区事務所にこの DVD を 10 部お送りしましたので、どうぞご活用ください。

また、2013 年 3・11Memorial Month 資料を、ニュースと共に同封致しました。東日本大震災 2 周年記念礼拝などに用いていただければと思います。

日本基督教団

東日本大震災救援対策本部ニュース

Vol. 08

2013 年 3 月 4 日発行

169-0051　東京都新宿区西早稲田 2-3-18　T/F 03-3205-6088　救援対策本部長　石橋秀雄

危機にある人びとと共に

第 38 回教団総会において副議長に選ばれた私が、2 月から救援対策室室長に任じられました。早くこの務めになれて、お役にたちたいと願っています。

東日本大震災とそれに伴う原発事故が起きたとき、私が思い起こした聖句は、マタイ 7 章 24 節以下の主イエスのたとえでした。

「そこで、わたしのこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。」

■福島教会の礼拝堂跡地
旧会堂に使われていた
レンガで「いのり」の文字

主は、洪水という危機に備えて岩の上に家を建てた賢い人と、よく考えないで砂の上に家を建てた愚かな人とを比べられました。

主のたとえの目的は、主の言葉を聞いて行うことこそが、真の知恵であって、その人を救うのだということを知らせることでした。その知恵の中心は霊的なものです。しかし、主は、このたとえにより、自然災害の危機に備える人を「賢い人」と呼び、この世の知恵をも重んじておられることを明らかにされました。

個人であれ、集団であれ、危機に備えること、またその危機が襲ったときの対処の仕方について、主イエスは深い関心をもっておられました。それは、主が、危機に陥った人びとを助けようとされたことからわかります。例えば、当時の人びとの最も典型的な危機は病気でしたが、主は病気の人びとを深く憐れみ、彼らの多くを癒されました。

主は、世の終わりにおける究極の救いに与らせるために神の国の福音を宣べ伝えられましたが、同時に究極前の人の命を救うことをもおろそかにはされなかったのです。なぜなら、この世における命と永遠の命とは、主において深くつながっているからです。

このことを私たちは忘れかけていたかもしれません。しかし、この圧倒的な規模の自然災害とそれに伴って起きた原発事故という人為的な災害によって、危機の最中にある人びとに支援の手を伸べることがどんなに大切か、また御心に適うことかを、知らされました。

世界の諸教会から救援の手が差し伸べられました。その資金を用いて、我々は地域のための支援を行ってきました。また、国内の諸教会からの献金により、会堂・牧師館の再建支援にとりかかり、それが本格化しようとしています。

間もなく、大震災後 2 年が経ちます。これからは、中・長期的な活動に移ります。海外からの献金は、細るでしょう。その中で、教会でなくてはできない、教会らしい救援活動に絞っていきたいと思います。他方、教会再建のための資金のニードは増大しそうです。

引き続き、諸教会と関心を持ってくださるすべての方々の支援と祈りをお願いします。

日本基督教団
総会副議長
伊藤瑞男
（大泉ベテル教会牧師）

■被災地を訪ねて

2月20日（水）と21日（木）、福島市といわき市の教会を訪ねました。それぞれの形で教会再建と地域のために尽力しておられる方々とお会いすることが出来ました。（救援対策本部委員／大村　栄）

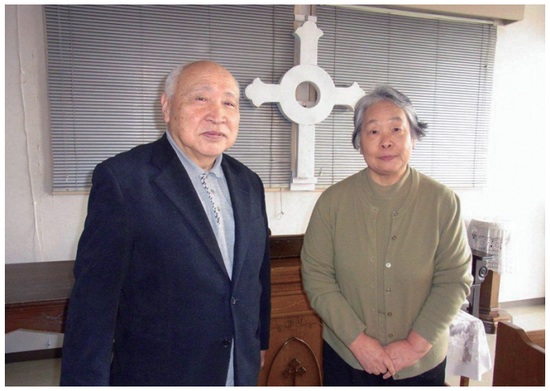
福島教会

「2011年の東日本大震災からまもなく2年になります。福島教会は、ヴォーリズの設計による1909年竣工の礼拝堂を失いましたが、幸い残った伝道館で礼拝が守られております。国の文化財にも指定され、地域の皆さまからも愛されてきた美しい建物の姿は今はありませんが、多くの教会と人々の温かい励まし・ご支援を受けながら、希望に満ちて礼拝堂再建への歩みを進めています」（福島教会のホームページより）。

福島教会の礼拝堂は震災で煙突が倒壊し、相次ぐ余震で内部も亀裂がひどくなり、近所からの不安の声もあって解体工事を急ぎ、震災後の3月末には取り壊しが終わっていました。惜しむ声も少なくありませんでしたが、完全に補修して元の形を維持するためには数億円の費用が掛かることが分かり、それは出来ませんでした。礼拝堂の長椅子や講壇、屋根の十字架などを敷地内の「伝道館」に移し、そこで20数名の方々が礼拝を続けておられます。

震災直後に福島教会は無牧になりましたが、2011年12月、大阪教区千里丘教会を最後に隠退していた似田（にただ）兼司牧師が、現役復帰して着任されました。似田牧師はかつて福島教会の目と鼻の先に生まれ育ち、高校生まで同教会で育った方です。神学校を出てから主に関西方面で長年牧会をなさいました。何度かあった母教会からの招聘も断りながら、72歳で少々健康の課題もあって隠退されました。その後も大阪に住まいを得て住んでおられましたが、3·11の福島教会の被災と無牧になった状態を知り、健康もある程度回復されたので、現役牧師に復帰して、奥様と2人で福島へと赴いたのです。

「主の召しと信じて招聘に応じました。年老いた者に何ができるか分かりませんが、少しでも主とその教会に仕え、次の伝道者を迎えることができるように微力を尽くしたいと思っています」と記した各方面への「着任挨拶状」を、福島駅前のポストに投函して覚悟を決め、さらに教会へ向かう前に市役所へ行って転入届を出したところ、窓口で「転入ですか」と念を押されたそうです。市民の転出が続出しているからです。



■福島教会　似田兼司牧師ご夫妻　仮礼拝堂で

福島市では地震の被害もさることながら、原発事故による放射能の問題が深刻です。福島市は東京電力福島第一原発から北西に約60キロ離れていますが、あの事故の直後、北西に向かって吹く風に乗って放射能が飛来したと言われます。現在も場所によっては高い放射線量が計測されます。除染は時間と労力の掛かる作業で、なかなかはかどりません。

放射能を避けて市外に避難する方が多く、現在も福島市で約6000人の市民が市外、県外に避難しているそうです。夫と高齢者が残り、妻と子だけが避難する場合が多く、家族が分断されるという問題が起きています。避難先では、福島から来たことを隠して暮らしているようなケースもあるそうで、心を痛めます。

町の名所にもなっていた礼拝堂を失ったことで、教会はもう閉鎖したのかと誤解されそうなので、伝道館でチャーチ・コンサートを開くなどして、地域に教会の存続をアピールしようともしています。

歴史的な会堂の復元は無理でも、新しい礼拝堂を建てることは、伝道力回復のために急務です。東北教区の高橋和人議長などと相談しながら建築計画を進めていますが、20名ほどに減った群で数千万円の費用を賄うことは困難です。教団の10億円募金からの援助が期待されています。

更地となった会堂の跡地に、解体された礼拝堂の赤レンガを用いて「いのり」の3文字が描かれていたのが印象的でした（1面写真）。

いわき市３教会

翌21日（木）にはいわき市の被災地を見学し、同市内の３教会、勿来教会、磐城教会、常磐教会とそれぞれの付属施設などを訪ねました。

常磐教会は、かつて常磐炭坑で栄えた町の中心にある教会ですが、震災で大きく損傷したので解体せざるを得ませんでした。元の炭坑に近い地域にある関係保育園の保育室を使って礼拝を行っています。

この教会は震災当時、武公子牧師が牧会していましたが、保育園園長の定年制もあって武先生は辞任を申し出、後任探しが始まっていました。あの日、激しい地震と津波に襲われ、ライフラインが絶たれて、しばらくは食料や飲み水はもちろん、トイレを流す水もない厳しい状況の中、武牧師はどこにも逃げることも出来ず、愛犬を抱いて震えていたそうです。

そして放射能汚染。続々と町を出て行く人があり、教会員も去って行く中で、武牧師はこの土地に残ることを決断し、無牧になって閉鎖されようとしていた隣の勿来（なこそ）教会に、昨年の7月に転任しました。前任の藤田眞佐子牧師が病のため逝去され、その看とりをなさった信徒の吉田昭男さん、光枝さんご夫妻が、無牧の間も教会を守り続けていました。

牧師を迎えた教会に、一人の受洗者と一人の転会者

■勿来教会

が与えられました。放射能を避けて避難してきた若いお母さんも礼拝に来ていますが、教会に与えられた主にある希望の中で、その方も平安を取り戻しつつあるそうです。

磐城教会は震災の直後に無牧となりましたが、間もなく上竹裕子牧師が着任されました。牧師は隣の清風幼稚園のチャプレンもしながら、伝道と被災した方たちの心のケアに当たっています。午後2時46分頃になると、2年前のあの日、激しい恐れの中で幼稚園に子供を迎えにいった時のことを思い出して、時々涙が出るというお母さんがいるそうです。

このようなお母さんや子どもたちに、「短期保養プログラム」を利用していただきたいものです。教団の「こひつじキャンプ」や、北海・奥羽・東北の3教区が合同で実施している「親子短期保養プログラム」もあります。

常磐教会は武公子先生の後任に、会津出身の明石嘉信牧師が就任され、震災で半壊し、取り壊した会堂の建築に懸命に当たっています。理事長・園長をしている白水のぞみ保育園では園庭に線量計が設置され、その数値は常に厚生労働省に送信されています。砂場は園庭から屋内に移し、放射能汚染のない砂を琵琶湖から取り寄せたそうです。

■左から明石牧師（常磐教会）、武牧師（勿来教会）、上竹牧師（磐城教会）

■いわき食品放射能計測所にある空間線量計（無料貸出）

明石牧師は「東北ヘルプ」（仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク）と「いわきCERSネット」（いわきキリスト教連合震災復興支援ネットワーク）が共同運営する「いわき食品放射能計測所－いのり」の運営委員を務めています。

計測所は地域の方たちの要請により、食料品や母乳、尿などの放射線量を計測し、カウンセリングも行います。空間線量計の貸出もしており、いずれも無料です。それらの費用は、海外の諸教会・団体から、NCC-JEDRO（エキュメニカル震災対策室）を通じて送られた資金で賄われています。計測所長は日本同盟キリスト教団勿来キリスト福音教会の住吉牧師。超教派による協力体制が充実しています。

計測所は家賃倹約のため、新築する常磐教会の敷地内に、外部からの放射線を遮断する建物を建てて、そこに移設することを計画しています。そのために常磐教会の再建費用は多めに掛かりそうですが、教会がこの地の放射能問題と取り組むために必要な資金です。教団は10億円募金からその援助をしようとしています。

福島といわきの視察を通して、色々な「ギャップ」を感じました。平穏に見える日常と、そのすぐ隣にある重い不安や痛み。あの極限状況の中で見られた人間の弱さと、しかし同時に見られた人間の勇気や信頼。そして被災地とそうでない土地の差……。

人間の力では埋めることの出来ないギャップを多く抱える私たちですが、受難節にあたり、改めて十字架の主によって「隔ての壁」（エフェソ2:14）が克服されることを信じます。使徒信条で「教会を信ず」「よみがえりを信ず」と告白する私たちには希望があります。

■白水のぞみ保育園園庭の線量計

Litany

ゲッセマネの主イエスが求められましたように、私たちがこの社会の中に在って目を覚ましていることができますように。どうか、震災より2年を迎えた我々を襲う、逃避と忘却の誘惑からお救いください。この社会に在ってあなたの教会こそが、他者の苦しみ痛みを日々思いやり、寄り添いを続け、希望を見出してゆく群れとされますように。

今、私たちはあなたによって新たにされ、不安とあきらめ、怒りと裁き、逃避と忘却を乗り越え、この社会に派遣されようとしています。私たち一人一人があなたの教会の枝として、日々祈りと讃美をもって、苦難の出来事と社会の混沌とに勝利するあなたを証しする者とさせてください。

私たちの派遣者、勝利の主イエス・キリストの御名によって祈ります。

「3・11東日本大震災2周年記念礼拝式文」（救援対策本部作成）より（全文は教団の公式ホームページ http://uccj.org/ にあります）